時事新報

驛遞局認可

明治十八年二月十七日　火曜日

第八百九十四號

日曜日休刊

賞勳叙任

東京朝日新聞

○明治四年第八號太政日小誌掲

歩兵少佐従六位勲五等　鶴埼　盛敏
全　歩兵中佐正六位勲五等　桂　太郎
全　歩兵少佐従六位勲五等　大久保利貞
全　鎮兵少佐従六位勲五等　曲淵　保永
全　二等軍醫正従六位勲五等　柴田　正考
全　全　戸塚　正一
全　全　李家　文厚

○明治十八年二月十四日

任元老院議官　特命全權公使　上野　景範
任特命全權公使　歩兵權大佐従四位勲二等　西鄕　從雄
　　副三等侯爵
　　天政官大書記官兼參事院議官　金子堅太郎
　　補元老院權大書記官従五位
兼任元老院大書記官兼參事院議官補勲六等

時事彙報

支那談判ニ付キ文明諸國人ハ必ズ我意見ヲ賛成ス可シ

朝鮮ノ事變ニ付キ支那ヘ開戰ノ事ハ今更其當否ヲ論スルニモ及ハズ去年ノ十二月六日朝鮮ノ京城ニ於テ支那ノ兵ガ日本ノ兵ニ向テ暴擧ヲ又隨テ日本ノ人民ヲ殺傷シタルガ故ニ如何ナル意志ニテ斯ル不法ヲ働キタルヤト其罪ヲ問ヒ其賠償ヲ求ルコトナレバ理由ノ明白ナル世界中風潮自拔ニ非ザルヨリ以上ノ者ハ我日本ノ開戰ヲ無理ト云フモノハナカル可ク又コノ賠償要求ノ序ニ支那兵ヲシテ朝鮮ノ地ヲ去ラシムルノ掛合ヒモアル可キニ依テ朝鮮ノ獨立ヲ保護スルガ故ニ今後事變ノ再發ヲ預防スルニハ其原因ヲ除クノ大策ナレバナリ是レ亦甚ダ難易キ事柄ニシテ三頭ノ童子ニシテモ之ヲ聞ケバ成ル程ト合點スルコトナラン然ルニ世間或ハ說ヲ作ス者アリ云ク支那人ト他ニ異ルヲ認ムノ情ハ普通ノ人類ニ同シカル可キニ今其開國ノ日本ヨリ開戰ノ掛合ヲ受ケテ之ニ開口スルハ現今ノ況ヤ己ガ屬邦視スル朝鮮ノ地方ヨリ兵ヲ引揚ルガ如キハ日本ニ促カサレテ屈辱スルノ後ナレバ最モ不愉快ニ思フコトナラン情ソノ上ニモ支那ハ大國ニシテ歐米諸國ト失ニ支那ノ商賈ヲ大切ニ思ヒ、其貿賣ガ大切ナル故ニ其國モ亦自ラ大切ト爲リ、何トナク支那ニ感覺スルノ情モアル可シ現ニ英國ノ如キハ最モ支那ニ厚ク結託シ居ルヲ以テ日本ヨリ支那ヘ開戰ナドハ偏リ快ヨシトモ思ハズシテ支那兵引揚ノ事ニ就テモ日本ノ說ヲ贊成スルコトナカル可シ云ヤト況ヤ其國スル者ナキニ非ズ此說ハ一寸尤モノ樣ニ聞ユレドモ世界◎各國貿易ノ事情ヲ知ラザルモノ、皮相論ニシテ根ザス本來日本ヲ始メトシテ米國ニテモ英國ニテモ朝鮮ニ條約ヲ結ビタルハ條約通商ト名ツケト雖ニ條約ノ眼目ハ主眼ニ非ズ最重スルニ今ノ交通至便ノ世ニ在テ各國物産ノ有無相易ヘ、過不足相辨スルハ双方共ニ利益ナルガ故ニ此利益ヲ空ウセザラント互ニ通商ノ條約ナカル可ラズ通商ニモ親睦ノ交際ナカル可ラズ故ニ世界各國ノ條約ハ唯貿易商賈ノタメニスルニシテ修好ノ事モ生スルコトナリ然ルニ今大久保利貞ニ委用ナル丈ケノ儀式ニ止マリ左マデ深キ意味ナキモノト知ル可シ左レバ今朝鮮ニ對シ米國英國獨逸等ニ於テ其條約ノ目的ニ從ヒ朝鮮國カ如何ナレバ最モ便利ナル可キヤト尋ルニ多辨ヲ費スニ及バズ第一ニ其國ノ人民ガ文明世界ノ有樣ヲ了解シテ諸外國人ヲ友視シ文明ノ文物ヲ國ニ容レテ改進ヲ謀ルヨリ第二ニハ國ニ變亂ノ抄汰少ナクシテ其朝野ノ人心一致調和スルヨリ第三ニ隨テ其殖產ノ道モ次第ニ進ミ始メテ東洋一方ノ貿易國トナル可キヤ何ヲ以テ文明世界ノ有樣ヲ了解シ其兵ノ引揚ヒヲ促カスハ西洋諸國人ガ貿易ヲ重ンズルノ精神ニ訴ヘテモ日本政府ノ意見ヲ賛成ス可キハ更ニ疑ヲ容レザル所ナリ

雜報

○三宮横須賀に赴かる　山階、伏見、小松の三宮ゑは本日午前七時三十分新橋發の汽車にて横須賀の造船所を御一覽なさる可し同宮ゑい同所鍋倉五郎兵衛方へ御一泊ゑ上明日觀音崎ゑ赴かるゝ筈なりと

○國長の祝宴　昨十六日ハ北白川能久親王の御誕辰なるゑ以て各皇族並御息所を紀尾井町の御邸に招請して祝宴を開かれたり

○伊藤伯　この程箱根へ赴きし同伯は一昨十五日熱海に廻りて同所の樋口方に投宿ありしと

○佐々木工部卿　同卿は明十八日午後六時より同省勅奏官及御雇外國人一同を鹿鳴館ゑ招請して饗宴を開く筈なりと

○獨相、佛相を訪ふんとするの風說　獨逸宰相ビスマーク公が佛國の首相フェリー氏を訪問すべしとの噂あるよし去る頃の本紙上に掲載せしが猶は此程到着せし昨年末の外國新聞を見るゑ獨逸宰相ビスマーク公は獨逸國の使節となり一月十二日頃佛國に赴き三日間巴里府に滯在すべし此旅行の目的ハ獨佛兩國の間ゑ親密なる交誼の存する事ゑ英國に知らしめん爲めなるよし但フェリー氏が返禮として伯林へ出向くべしや否やハ判らず云々とあり右の風說は本と佛國ゟ新聞がらの紙上に記載し夫ゟ四方に傳播せし事にて日耳曼の新聞には一も此等の事ゑきゝよしあれどビスマーク公の佛國行は全くフェリー氏と計略ゑて獨佛の交誼を厚ふ樣ゑ見せ掛け英人の心を動かさしめんと企てゐる事ならん

○參內謁見幷賢所參拜　農商務省三等出仕安田定則氏ハ英國龍動府萬國博覽會事務官長として全權少書記官山本五郎氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品萬國博覽會事務官として近日出發するに付昨十六日午前十時參內拜謁幷に賢所參拜仰付られ又東京府華族松平頴和氏ハ英國へ留學の爲め、農商務一等屬平山英三氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品博覽會事務官として全三等屬尾崎逸足ゑ全權判任御用掛渡瀨寅次郎氏ハ英國龍動府萬國發明品博覽會事務官補として何れも近日出發に付今日ゑ賢所參拜仰付られさり

○安田定則氏　安田農商務三等出仕の一行ハ來る廿一日の便船に搭して英國倫敦府に開設する新發明品博覽會場へ出張ゑ都合あり

○出京幷歸京　一昨十五日午後二時三十分新橋着の汽車にて西村沖繩縣令ゑい出京ゑし華族侯爵氏も之と同伴にて歸京なしたり

○歸縣　ゑの程ゟり出京中なりし國口靜岡縣令ハ一昨十五日伊志田同縣大書記官と共に歸任なしたり

○山本弘氏の辭表　山本元老院權大書記官ゑい環て北海道の海產事業を大ゑ盛昌ゑゝめんとの志を有し居たりしが今度急ゑ拂底の上該事業ゑ從事せんと既ゑ辭表と差出したりと云ふ

○被仰付　則元、元老院權大書記官兼參事院議官補勲六等

て左の通仰付けらる

岡山始審裁判所詰

○出發　去る十三二名と信越地方へ分の爲めなるよし

○忌引　陸軍教導去る十四日病死ゑ

○河野通好氏　仙日本驛を免ぜられ

○賞見奏聞　一昨明消火水の實驗を右實況視察の爲め氏を差遣ゑされしに及びさる由

○屬縮　横濱始審ルテン氏は來る三縮の約束を結びた

○伊國へ派遣　陸め砲兵科の士官ゑ開く

○露國ハ兵備　露來大金ゑ掛けて堅黒海の沿岸ゑ有するよしにて費用を國新聞に見ゆ

○クルップ砲据付　ルップ砲四門づゝゑ附屬する物品を

○撿事會議　司法裁判所の撿事長を

○改進黨集會　同次會を開ゐ來りるに付一昨十五日

驛遞局認可

明治十八年二月十七日　火曜日

第八百九十四號

日曜日休刊

賞勳叙任

東京朝日新聞

○明治四年第八號太政日小誌掲

歩兵少佐従六位勲五等　鶴埼　盛敏
全　歩兵中佐正六位勲五等　桂　太郎
全　歩兵少佐従六位勲五等　大久保利貞
全　鎮兵少佐従六位勲五等　曲淵　保永
全　二等軍醫正従六位勲五等　柴田　正考
全　全　戸塚　正一
全　全　李家　文厚

○明治十八年二月十四日

任元老院議官　特命全權公使　上野　景範
任特命全權公使　歩兵權大佐従四位勲二等　西鄕　從雄
　　副三等侯爵
　　天政官大書記官兼參事院議官　金子堅太郎
　　補元老院權大書記官従五位
兼任元老院大書記官兼參事院議官補勲六等

時事彙報

支那談判ニ付キ文明諸國人ハ必ズ我意見ヲ賛成ス可シ

朝鮮ノ事變ニ付キ支那ヘ開戰ノ事ハ今更其當否ヲ論スルニモ及ハズ去年ノ十二月六日朝鮮ノ京城ニ於テ支那ノ兵ガ日本ノ兵ニ向テ暴擧ヲ又隨テ日本ノ人民ヲ殺傷シタルガ故ニ如何ナル意志ニテ斯ル不法ヲ働キタルヤト其罪ヲ問ヒ其賠償ヲ求ルコトナレバ理由ノ明白ナル世界中風潮自拔ニ非ザルヨリ以上ノ者ハ我日本ノ開戰ヲ無理ト云フモノハナカル可ク又コノ賠償要求ノ序ニ支那兵ヲシテ朝鮮ノ地ヲ去ラシムルノ掛合ヒモアル可キニ依テ朝鮮ノ獨立ヲ保護スルガ故ニ今後事變ノ再發ヲ預防スルニハ其原因ヲ除クノ大策ナレバナリ是レ亦甚ダ難易キ事柄ニシテ三頭ノ童子ニシテモ之ヲ聞ケバ成ル程ト合點スルコトナラン然ルニ世間或ハ說ヲ作ス者アリ云ク支那人ト他ニ異ルヲ認ムノ情ハ普通ノ人類ニ同シカル可キニ今其開國ノ日本ヨリ開戰ノ掛合ヲ受ケテ之ニ開口スルハ現今ノ況ヤ己ガ屬邦視スル朝鮮ノ地方ヨリ兵ヲ引揚ルガ如キハ日本ニ促カサレテ屈辱スルノ後ナレバ最モ不愉快ニ思フコトナラン情ソノ上ニモ支那ハ大國ニシテ歐米諸國ト失ニ支那ノ商賈ヲ大切ニ思ヒ、其貿賣ガ大切ナル故ニ其國モ亦自ラ大切ト爲リ、何トナク支那ニ感覺スルノ情モアル可シ現ニ英國ノ如キハ最モ支那ニ厚ク結託シ居ルヲ以テ日本ヨリ支那ヘ開戰ナドハ偏リ快ヨシトモ思ハズシテ支那兵引揚ノ事ニ就テモ日本ノ說ヲ贊成スルコトナカル可シ云ヤト況ヤ其國スル者ナキニ非ズ此說ハ一寸尤モノ樣ニ聞ユレドモ世界◎各國貿易ノ事情ヲ知ラザルモノ、皮相論ニシテ根ザス本來日本ヲ始メトシテ米國ニテモ英國ニテモ朝鮮ニ條約ヲ結ビタルハ條約通商ト名ツケト雖ニ條約ノ眼目ハ主眼ニ非ズ最重スルニ今ノ交通至便ノ世ニ在テ各國物産ノ有無相易ヘ、過不足相辨スルハ双方共ニ利益ナルガ故ニ此利益ヲ空ウセザラント互ニ通商ノ條約ナカル可ラズ通商ニモ親睦ノ交際ナカル可ラズ故ニ世界各國ノ條約ハ唯貿易商賈ノタメニスルニシテ修好ノ事モ生スルコトナリ然ルニ今大久保利貞ニ委用ナル丈ケノ儀式ニ止マリ左マデ深キ意味ナキモノト知ル可シ左レバ今朝鮮ニ對シ米國英國獨逸等ニ於テ其條約ノ目的ニ從ヒ朝鮮國カ如何ナレバ最モ便利ナル可キヤト尋ルニ多辨ヲ費スニ及バズ第一ニ其國ノ人民ガ文明世界ノ有樣ヲ了解シテ諸外國人ヲ友視シ文明ノ文物ヲ國ニ容レテ改進ヲ謀ルヨリ第二ニハ國ニ變亂ノ抄汰少ナクシテ其朝野ノ人心一致調和スルヨリ第三ニ隨テ其殖產ノ道モ次第ニ進ミ始メテ東洋一方ノ貿易國トナル可キヤ何ヲ以テ文明世界ノ有樣ヲ了解シ其兵ノ引揚ヒヲ促カスハ西洋諸國人ガ貿易ヲ重ンズルノ精神ニ訴ヘテモ日本政府ノ意見ヲ賛成ス可キハ更ニ疑ヲ容レザル所ナリ

雜報

○三宮横須賀に赴かる　山階、伏見、小松の三宮ゑは本日午前七時三十分新橋發の汽車にて横須賀の造船所を御一覽なさる可し同宮ゑい同所鍋倉五郎兵衛方へ御一泊ゑ上明日觀音崎ゑ赴かるゝ筈なりと

○國長の祝宴　昨十六日ハ北白川能久親王の御誕辰なるゑ以て各皇族並御息所を紀尾井町の御邸に招請して祝宴を開かれたり

○伊藤伯　この程箱根へ赴きし同伯は一昨十五日熱海に廻りて同所の樋口方に投宿ありしと

○佐々木工部卿　同卿は明十八日午後六時より同省勅奏官及御雇外國人一同を鹿鳴館ゑ招請して饗宴を開く筈なりと

○獨相、佛相を訪ふんとするの風說　獨逸宰相ビスマーク公が佛國の首相フェリー氏を訪問すべしとの噂あるよし去る頃の本紙上に掲載せしが猶は此程到着せし昨年末の外國新聞を見るゑ獨逸宰相ビスマーク公は獨逸國へ使節となり一月十二日頃佛國に赴き三日間巴里府に滯在すべし此旅行の目的ハ獨佛兩國の間ゑ親密なる交誼の存する事ゑ英國に知らしめん爲めなるよし但フェリー氏が返禮として伯林へ出向くべしや否やハ判らず云々とあり右の風說は本と佛國へ新聞がらの紙上に記載し夫ゟ四方に傳播せし事にて日耳曼の新聞には一も此等の事ゑきゝよしあれどビスマーク公の佛國行は全くフェリー氏と計略ゑて獨佛の交誼を厚ふ樣ゑ見せ掛け英人の心を動かさしめんと企てゐる事ならん

○參內謁見幷賢所參拜　農商務省三等出仕安田定則氏ハ英國龍動府萬國博覽會事務官長として全權少書記官山本五郎氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品萬國博覽會事務官として近日出發するに付昨十六日午前十時參內拜謁幷に賢所參拜仰付られ又東京府華族松平頴和氏ハ英國へ留學の爲め、農商務一等屬平山英三氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品博覽會事務官として全三等屬尾崎逸足ゑ全權判任御用掛渡瀨寅次郎氏ハ英國龍動府萬國發明品博覽會事務官補として何れも近日出發に付今日ゑ賢所參拜仰付られさり

○安田定則氏　安田農商務三等出仕の一行ハ來る廿一日の便船に搭して英國倫敦府に開設する新發明品博覽會場へ出張ゑ都合あり

○出京幷歸京　一昨十五日午後二時三十分新橋着の汽車にて西村沖繩縣令ゑい出京ゑし華族侯爵氏も之と同伴にて歸京なしたり

○歸縣　ゑの程ゟり出京中なりし國口靜岡縣令ハ一昨十五日伊志田同縣大書記官と共に歸任なしたり

○山本弘氏の辭表　山本元老院權大書記官ゑい環て北海道の海產事業を大ゑ盛昌ゑゝめんとの志を有し居たりしが今度急ゑ拂底の上該事業ゑ從事せんと既ゑ辭表と差出したりと云ふ

○被仰付　則元、元老院權大書記官兼參事院議官補勲六等

て左の通仰付けらる

岡山始審裁判所詰

○出發　去る十三二名と信越地方へ分の爲めなるよし

○忌引　陸軍教導去る十四日病死ゑ

○河野通好氏　仙日本驛を免ぜられ

○賞見奏聞　一昨明消火水の實驗を右實況視察の爲め氏を差遣ゑされしに及びさる由

○屬縮　横濱始審ルテン氏は來る三縮の約束を結びた

○伊國へ派遣　陸め砲兵科の士官ゑ開く

○露國ハ兵備　露來大金ゑ掛けて堅黒海の沿岸ゑ有すするよしにて費用を國新聞に見ゆ

○クルップ砲据付　ルップ砲四門づゝゑ附屬する物品を

○撿事會議　司法裁判所の撿事長を

○改進黨集會　同次會を開ゐ來りるに付一昨十五日

驛遞局認可

明治十八年二月十七日　火曜日

第八百九十四號

日曜日休刊

賞勳叙任

東京朝日新聞

○明治四年第八號太政日小誌掲

歩兵少佐従六位勲五等　鶴埼　盛敏
全　歩兵中佐正六位勲五等　桂　太郎
全　歩兵少佐従六位勲五等　大久保利貞
全　鎮兵少佐従六位勲五等　曲淵　保永
全　二等軍醫正従六位勲五等　柴田　正考
全　全　戸塚　正一
全　全　李家　文厚

○明治十八年二月十四日

任元老院議官　特命全權公使　上野　景範
任特命全權公使　歩兵權大佐従四位勲二等　西鄕　從雄
　　副三等侯爵
　　天政官大書記官兼參事院議官　金子堅太郎
　　補元老院權大書記官従五位
兼任元老院大書記官兼參事院議官補勲六等

時事彙報

支那談判ニ付キ文明諸國人ハ必ズ我意見ヲ賛成ス可シ

朝鮮ノ事變ニ付キ支那ヘ開戰ノ事ハ今更其當否ヲ論スルニモ及ハズ去年ノ十二月六日朝鮮ノ京城ニ於テ支那ノ兵ガ日本ノ兵ニ向テ暴擧ヲ又隨テ日本ノ人民ヲ殺傷シタルガ故ニ如何ナル意志ニテ斯ル不法ヲ働キタルヤト其罪ヲ問ヒ其賠償ヲ求ルコトナレバ理由ノ明白ナル世界中風潮自拔ニ非ザルヨリ以上ノ者ハ我日本ノ開戰ヲ無理ト云フモノハナカル可ク又コノ賠償要求ノ序ニ支那兵ヲシテ朝鮮ノ地ヲ去ラシムルノ掛合ヒモアル可キニ依テ朝鮮ノ獨立ヲ保護スルガ故ニ今後事變ノ再發ヲ預防スルニハ其原因ヲ除クノ大策ナレバナリ是レ亦甚ダ難易キ事柄ニシテ三頭ノ童子ニシテモ之ヲ聞ケバ成ル程ト合點スルコトナラン然ルニ世間或ハ說ヲ作ス者アリ云ク支那人ト他ニ異ルヲ認ムノ情ハ普通ノ人類ニ同シカル可キニ今其開國ノ日本ヨリ開戰ノ掛合ヲ受ケテ之ニ開口スルハ現今ノ況ヤ己ガ屬邦視スル朝鮮ノ地方ヨリ兵ヲ引揚ルガ如キハ日本ニ促カサレテ屈辱スルノ後ナレバ最モ不愉快ニ思フコトナラン情ソノ上ニモ支那ハ大國ニシテ歐米諸國ト失ニ支那ノ商賈ヲ大切ニ思ヒ、其貿賣ガ大切ナル故ニ其國モ亦自ラ大切ト爲リ、何トナク支那ニ感覺スルノ情モアル可シ現ニ英國ノ如キハ最モ支那ニ厚ク結託シ居ルヲ以テ日本ヨリ支那ヘ開戰ナドハ偏リ快ヨシトモ思ハズシテ支那兵引揚ノ事ニ就テモ日本ノ說ヲ贊成スルコトナカル可シ云ヤト況ヤ其國スル者ナキニ非ズ此說ハ一寸尤モノ樣ニ聞ユレドモ世界◎各國貿易ノ事情ヲ知ラザルモノ、皮相論ニシテ根ザス本來日本ヲ始メトシテ米國ニテモ英國ニテモ朝鮮ニ條約ヲ結ビタルハ條約通商ト名ツケト雖ニ條約ノ眼目ハ主眼ニ非ズ最重スルニ今ノ交通至便ノ世ニ在テ各國物産ノ有無相易ヘ、過不足相辨スルハ双方共ニ利益ナルガ故ニ此利益ヲ空ウセザラント互ニ通商ノ條約ナカル可ラズ通商ニモ親睦ノ交際ナカル可ラズ故ニ世界各國ノ條約ハ唯貿易商賈ノタメニスルニシテ修好ノ事モ生スルコトナリ然ルニ今大久保利貞ニ委用ナル丈ケノ儀式ニ止マリ左マデ深キ意味ナキモノト知ル可シ左レバ今朝鮮ニ對シ米國英國獨逸等ニ於テ其條約ノ目的ニ從ヒ朝鮮國カ如何ナレバ最モ便利ナル可キヤト尋ルニ多辨ヲ費スニ及バズ第一ニ其國ノ人民ガ文明世界ノ有樣ヲ了解シテ諸外國人ヲ友視シ文明ノ文物ヲ國ニ容レテ改進ヲ謀ルヨリ第二ニハ國ニ變亂ノ抄汰少ナクシテ其朝野ノ人心一致調和スルヨリ第三ニ隨テ其殖產ノ道モ次第ニ進ミ始メテ東洋一方ノ貿易國トナル可キヤ何ヲ以テ文明世界ノ有樣ヲ了解シ其兵ノ引揚ヒヲ促カスハ西洋諸國人ガ貿易ヲ重ンズルノ精神ニ訴ヘテモ日本政府ノ意見ヲ賛成ス可キハ更ニ疑ヲ容レザル所ナリ

雜報

○三宮横須賀に赴かる　山階、伏見、小松の三宮ゑは本日午前七時三十分新橋發の汽車にて横須賀の造船所を御一覽なさる可し同宮ゑい同所鍋倉五郎兵衛方へ御一泊ゑ上明日觀音崎ゑ赴かるゝ筈なりと

○國長の祝宴　昨十六日ハ北白川能久親王の御誕辰なるゑ以て各皇族並御息所を紀尾井町の御邸に招請して祝宴を開かれたり

○伊藤伯　この程箱根へ赴きし同伯は一昨十五日熱海に廻りて同所の樋口方に投宿ありしと

○佐々木工部卿　同卿は明十八日午後六時より同省勅奏官及御雇外國人一同を鹿鳴館ゑ招請して饗宴を開く筈なりと

○獨相、佛相を訪ふんとするの風說　獨逸宰相ビスマーク公が佛國の首相フェリー氏を訪問すべしとの噂あるよし去る頃の本紙上に掲載せしが猶は此程到着せし昨年末の外國新聞を見るゑ獨逸宰相ビスマーク公は獨逸國へ使節となり一月十二日頃佛國に赴き三日間巴里府に滯在すべし此旅行の目的ハ獨佛兩國の間ゑ親密なる交誼の存する事ゑ英國に知らしめん爲めなるよし但フェリー氏が返禮として伯林へ出向くべしや否やハ判らず云々とあり右の風說は本と佛國へ新聞がらの紙上に記載し夫ゟ四方に傳播せし事にて日耳曼の新聞には一も此等の事ゑきゝよしあれどビスマーク公の佛國行は全くフェリー氏と計略ゑて獨佛の交誼を厚ふ樣ゑ見せ掛け英人の心を動かさしめんと企てゐる事ならん

○參內謁見幷賢所參拜　農商務省三等出仕安田定則氏ハ英國龍動府萬國博覽會事務官長として全權少書記官山本五郎氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品萬國博覽會事務官として近日出發するに付昨十六日午前十時參內拜謁幷に賢所參拜仰付られ又東京府華族松平頴和氏ハ英國へ留學の爲め、農商務一等屬平山英三氏ハ獨逸聯邦バヽリア國ノーレンハルク府金銀及銅製品博覽會事務官として全三等屬尾崎逸足ゑ全權判任御用掛渡瀨寅次郎氏ハ英國龍動府萬國發明品博覽會事務官補として何れも近日出發に付今日ゑ賢所參拜仰付られさり

○安田定則氏　安田農商務三等出仕の一行ハ來る廿一日の便船に搭して英國倫敦府に開設する新發明品博覽會場へ出張ゑ都合あり

○出京幷歸京　一昨十五日午後二時三十分新橋着の汽車にて西村沖繩縣令ゑい出京ゑし華族侯爵氏も之と同伴にて歸京なしたり

○歸縣　ゑの程ゟり出京中なりし國口靜岡縣令ハ一昨十五日伊志田同縣大書記官と共に歸任なしたり

○山本弘氏の辭表　山本元老院權大書記官ゑい環て北海道の海產事業を大ゑ盛昌ゑゝめんとの志を有し居たりしが今度急ゑ拂底の上該事業ゑ從事せんと既ゑ辭表と差出したりと云ふ

○被仰付　則元、元老院權大書記官兼參事院議官補勲六等

て左の通仰付けらる

岡山始審裁判所詰

○出發　去る十三二名と信越地方へ分の爲めなるよし

○忌引　陸軍教導去る十四日病死ゑ

○河野通好氏　仙日本驛を免ぜられ

○賞見奏聞　一昨明消火水の實驗を右實況視察の爲め氏を差遣ゑされしに及びさる由

○屬縮　横濱始審ルテン氏は來る三縮の約束を結びた

○伊國へ派遣　陸め砲兵科の士官ゑ開く

○露國ハ兵備　露來大金ゑ掛けて堅黒海の沿岸ゑ有すするよしにて費用を國新聞に見ゆ

○クルップ砲据付　ルップ砲四門づゝゑ附屬する物品を

○撿事會議　司法裁判所の撿事長を

○改進黨集會　同次會を開ゐ來りるに付一昨十五日